ボツワナ

1．概観

－67年にダイヤモンドが発見され、70～00年にかけて年平均10%の経済成長率を記録。
－90年代後半、鉱業は政府歳入の55%を占めていたが、ボツワナ政府はダイヤモンド依存型経済からの脱却を目指し、産業多角化を促進。現在では40%以下まで下がっている。鉱業を除くと牧畜・観光に依存。
－一人当たりのGNI（GDP）は6，470ドルと中高所得国に分類。
－政権の安定と民主政治。アフリカ随一のグッドガバナンス。（腐敗認知度指数がアフリカ第1位（世界36位））

2．良好な投資環境～*投資の自由が確保され、ボツワナ政府による支援体制が充実*～

（1）ボツワナ輸出開発・投資促進機構（BEDIA）による支援体制
　－　ワンストップサービス
　－　オフィス等の提供
（2）政府による支援
　－　15%と低い事業税の適用とTAX HOLIDAY制（直接投資につき約2～5年の免税）あり
　－　送金の自由の確保（マネーロンダリング等を除き送金は自由）
　－　資源開発投資については15%の政府出資（資金支援）

3. アフリカ有数の資源大国

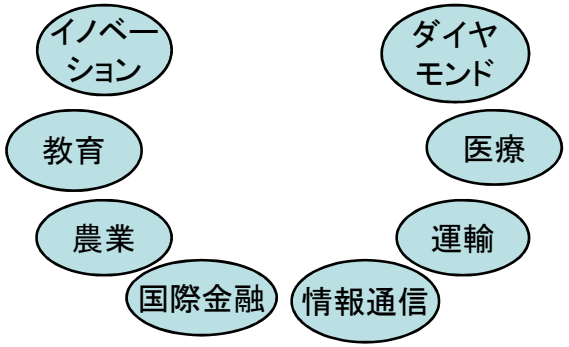
ダイヤモンド：世界最大の生産国。デビアス社の協力を得てダイヤモンド取引の中心地を目指す。
石　炭：埋蔵量は2000億トン。これを利用した発電と共に、石炭産業を輸出産業に育成する計画。この為石炭を港に輸送するための鉄道網の整備を推進。
ウ ラ ン：ナミビア（埋蔵量世界8位）と同レベルの埋蔵量を想定。ディスカバリー社（豪州）が調査中
ニッケル：BCL（豪州）が生産中
銅：ザンビアの銅鉱脈に接続しており、A-Cap社（豪州）が来年度より操業予定
CBM：カナダ企業が試掘中
その他：リチウムが塩湖に埋蔵との情報あり
10月、プラチナ鉱山の権益をJOGMECが取得（ディスカバリー社とのJV）

我が方の対応

資源開発・探査

JOGMECがロバツェにてリモートセンシングセンターを開設（昨年7月）。南部アフリカ諸国の能力向上とともに、鉱物探査にも取り組んでおり、本邦企業の進出を支援。また、ボツワナ国際科学技術大学・ボツワナ大学における鉱山関連教育に対する協力の可能性有り。

4. 国づくりのため産業多角化（ハブ構想）



ハブ構想

－国際科学技術大学の設立

－通信衛星の打ち上げ

－送金自由等の制度の制定　等

５．インフラ（電力等）の整備の推進

発電所プロジェクト が目白押し
（モルプレ、ママブラ、ママンツェ等）

（※）
ボツワナは電力の総需要量（約500MW)の75%を南アEskom社からの供給に依存。2010年よりは毎年100～150MWの供給がカットされる予定。このため、モルプレ発電所（120MW）を拡張して600MWの供給体制を目指している。但し、完成が2011年末のため、2010年、2011年は極端な電力の逼迫が予想される。

我が方の対応

－太陽光発電所の建設
（環境プログラム無償による支援を検討中）
－モルプレ発電所のリハビリテーション
（JICAによるF／S調査実施を検討中）

鉄道網（ボツワナ、ザンビア、ナミビア、モザンビークを接続する敷設計画）

我が方の対応

インフラ整備への円借款供与を検討中
－カズングラ陸橋（ボツワナ・ザンビア間の鉄道・道路を建設）